

## 【国語科】

### 1 国語科における課題

- 小学校では、文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題がある。
- 中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題がある。
- 高等学校では、教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり、授業改善に取り組む必要がある。また、文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること、国語の語彙の構造や特徴を理解すること、古典に対する学習意欲が低いことなどに課題がある。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成28年12月 中央教育審議会（答申）】

### 2 国語科教育に求められるもの

- 創造的・論理的思考を高めるために、「思考力・判断力・表現力等」の「情報を多面的・多角的に精査し構造化する力」がこれまで以上に必要とされるとともに、自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」や、他者との協働につながる「言葉を通じて伝え合う力」など、三つの側面の力がバランスよく育成されることが必要であること。
- より深く、理解したり表現したりするために、「情報を編集・操作する力」、「新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力」、「新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力」などの「考えを形成し深める力」を育成することが重要であること。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成28年12月 中央教育審議会（答申）】

### 3 学習指導要領の主な改善点について

#### 小学校

- ・ これまで、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成されていた内容が、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直された。
- ・ 語彙を豊かにする指導の改善・充実のため、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりが示されるとともに、語句への理解を深める指導事項が系統化して示された。
- ・ 情報の扱い方に関する指導の改善・充実のため、「情報の扱い方に関する事項」が新設され、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示された。
- ・ 〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程が一層明確にされ、各指導事項が位置付けられた。また、全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。
- ・ 都道府県名に用いる漢字20字を「学年別漢字配当表」の第4学年に加えるとともに、児童の学習負担に配慮し、第4学年、第5学年、第6学年の配当漢字及び字数の変更が行われた。

【小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月 文部科学省】

#### 中学校

- ・ これまで、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成されていた内容が、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直された。
- ・ 語彙を豊かにする指導の改善・充実のため、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりが示されるとともに、語句への理解を深める指導事項が系統化して示された。
- ・ 情報の扱い方に関する指導の改善・充実のため、「情報の扱い方に関する事項」が新設され、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示された。
- ・ 〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程が一層明確にされ、各指導事項が位置付けられた。また、全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。

【中学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月 文部科学省】

#### 高等学校

- ・ 実社会・実生活における言語による諸活動に必要な能力を育成する科目「現代の国語」と、我が国の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に生かす能力を育成する科目「言語文化」の二つの科目を、全ての高校生が履修する共通必修科目として設定する。
- ・ 選択科目においては、共通必修科目「現代の国語」及び「言語文化」において育成された能力を基盤として、「思考力・判断力・表現力等」の言葉の働きを捉える三つの側面のそれぞれを主として育成する科目として、「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」を設定する。  
また、「言語文化」で育成された資質・能力のうち「伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とする「古典探究」を設定する。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成28年12月 中央教育審議会（答申）】